

現状と課題

芸術文化は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするとともに、豊かな人間性を養い、創造力を育むものです。

このような中、将来、地域文化の担い手となる子どもたちのために、幼少の頃から多種多様な芸術文化に親しめる機会の充実を図り、地域における身近な芸術文化活動を推進していくことが重要となっています。

本市では、これまで北網圏北見文化センター・北見市民ホールなどにおいて、美術展の開催や舞台芸術など各種事業を実施することにより、芸術文化の創造・発表・鑑賞の機会の充実を図ってきておりますが、今後においては、更に、市民が多彩な芸術文化に親しむことができる環境づくりを推進していく必要があります。

1

北網圏北見文化センター、北見市民ホールや地区公民館などを活用し、音楽や演劇の公演、美術展や写真展、各種講座や講演会など、質の高い芸術・文化にふれる機会の充実を図ります。

主要施策

2

北網圏北見文化センターに収蔵する、地域ゆかりの貴重な美術作品を市民に公開するため、常設美術館の整備を検討します。



3

市民の創作活動に対し、活動や発表の場の提供、相互の交流、指導者の紹介や芸術家との交流、市民への情報提供・紹介などに努めます。

オホーツク太鼓
「青虎天真」

4

広報や情報誌、市のホームページなどでの情報発信やマスコミとの連携など、情報発信の充実と文化・芸術活動への参加者の拡大を図ります。

目
標

指 標 名	現状値(H19)	目標値(H25)
市民ホールイベント開催数	1,068回	1,100回
芸術公演鑑賞者数	3,638人	4,000人
芸術文化団体	374団体	380団体
きたみ市民芸術祭参加者数	10,350人	11,000人

現状と課題

文化財は、地域の歴史や文化等への正しい理解のために欠くことのできないものであり、文化財の保護と活用は、優れた文化の創造と発展の基礎となるものであることから、郷土の祭りや伝統行事など、地域における文化遺産を大切に保存し、将来に伝承していく必要があります。

本市には、北海道遺産に選定されている記念館や原生花園、北海道指定天然記念物、市指定文化財など貴重な文化遺産が数多くあることから、その保存・活用に努め、市民の郷土に対する愛情を育みながら、次代に引き継いでいく必要があります。

また、北海道及び標津町と連携し「北海道東部の窪みで残る大規模竪穴住居跡群(しくん)」として「常呂遺跡」の世界文化遺産への登録を目指すとともに、オホーツク文化竪穴住居等の復元など、新たな遺跡公園として整備していく必要があります。

主要施策

1

東京大学と連携し、史跡常呂遺跡の合同調査を実施し、「遺跡公園整備計画」の策定を図るとともに、歴史・文化ボランティアの育成を図ります。

2

「史跡常呂遺跡」を「北海道東部の窪みで残る大規模竪穴住居跡群」として世界文化遺産登録に向けた取り組みを進めます。

3

北海道指定天然記念物「温根湯エゾムラサキツツジ群落」や北見市指定文化財の「屯田兵人形」「カタクリ及び周囲の北方性落葉広葉樹林」等の保全を図ります。また、歴史的建造物の「ピアノ記念館」や「ハッカ記念館」、留辺蘂の「武華駅通」などの保全と活用を図ります。

4

ボランティアの協力を得ながら、北光社や屯田兵など開拓期の歴史の発掘と各種資料のデータベース化による保存を図るとともに、児童生徒をはじめ市民や観光客が歴史文化の学習ができるようホームページでの紹介や施設での展示を図ります。

5

旧1市3町の歴史を網羅した「新北見市史」編さんに向けて、新編さん計画の策定と推進体制の整備、各種資料の収集・整理・保存を図ります。

8

埋蔵文化財の発掘調査、郷土の歴史資料の収集、動植物相調査と自然資料の収集などを進め、教育機関や観光機関とも連携し、その成果の展示・公開を行います。

6

企画展や博物収蔵資料展、発掘体験講座の実施、自然観察会、サイエンススクールの実施、郷土史講座など、生涯学習の一環として郷土の自然・歴史・文化の普及・啓発活動を継続・充実します。

7

郷土研究会などと連携し、伝統工芸などの製作技術や芸能などの調査・発掘と映像による保存を図ります。

目
標

指標名	現状値(H19)	目標値(H25)
歴史・遺跡教室の参加数	968人	1,000人
歴史文化施設の利用者数	48,105人	50,000人
文化財案内ボランティアが1人	0人	5人

現状と課題

健全な精神と健康な肉体を育むスポーツは、体力の向上や健康の保持ばかりでなく、ストレスの解消や仲間づくりなど、明るく豊かで活力に満ちた生きがいのある社会に寄与する世界共通の文化です。

市民のスポーツニーズが年々多様化しており、健康でありたいと願う意識が強い一方、市民のスポーツ・レクリエーション活動への参加者は13%、「運動不足」と感じている市民は60%、「健康づくり、保健活動」への参加希望は19%という数字からも窺えるように、市民の運動不足や体力の低下が指摘されております。

この様なことから、誰もが、個人の体力や年齢・目的などに応じて、いつでも・どこでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現が望まれております。

また、初心者向けの教室やイベントの充実を図り、それぞれの興味や技術レベルに応じたスポーツを誰もが気軽に楽しめる環境を整備していくことと、カーリングやラグビーなど、全国レベルで活躍するアスリートが育つよう人材育成を図る必要があります。

主要施策

1

優れたスポーツ指導者の養成・確保・活用のために、スポーツ指導者リーダーバンク登録の推進を図ります。

2

市民が興味・関心を持ち、スポーツ活動に積極的に結びつくよう、広報や市のホームページなど多彩な媒体を活用したスポーツ情報の提供に努めます。

3

長い冬を健康で楽しく過ごすため、スキー、スケート、カーリングなど冬季スポーツの振興を図ります。

4

誰もが参加しやすい各種スポーツ教室・スポーツ活動に取り組み、スポーツに親しむ機会を提供するとともに、総合型地域スポーツクラブやサークル活動など、健康教育と連携した市民の自主的なスポーツ活動を促進します。

でっかいどう
オホーツクマーチ

5

健康・体力づくり関連機関と連携し、生涯にわたり健康で明るく活力ある生活を送るために、市民にスポーツの側面から健康保持促進・体力づくりについての啓発活動を進めます。



6

市民が楽しみ、スポーツの普及や交流につながる「サロマ湖 100kmウルトラマラソン」や「たんのカレーライスマラソン」など、各種スポーツ大会やイベントを支援します。

7

小・中学校の体育館を開放し、地域スポーツの振興を図ります。

8

体育協会と連携し、スポーツリーダーの育成やスポーツ少年団の育成・強化に努め、競技人口の底辺拡大を図るとともに、よりレベルの高い競技者の育成を図り、全道・全国・国際大会への派遣補助や各種競技大会の誘致に努めます。



9

地域の関係業界やスポーツ団体と連携し、ラグビーをはじめとしたスポーツ合宿を積極的に誘致し、地域経済の活性化を図るとともに、合宿チームによるスポーツ技術指導の実施など、レベルの高いスポーツに接する機会を増やし、各種競技団体の育成に努めます。

10

9人のオリンピック選手を輩出したカーリングにおいては、低学年層からの選手の育成・強化に努め、国内におけるカーリングのメッカとして全国にアピールします。

目 標	指 標 名	現状値(H19)	目標値(H25)
	総合型地域スポーツクラブ会員数	84人	100人
	各スポーツ教室開催数	30教室/年	33教室/年
	スポーツリーダーバンク登録者数	90人	110人